

○十七番（平井 一三君）登壇 皆様、こんにちは。自民党県議団の平井一三です。通告に従いまして、宇宙誕生のなぞを解明する国際リニアコライダー（ILC）の脊振地域への誘致について質問をいたします。

宇宙誕生の瞬間であるビッグバンの解明を目的とした、超伝導のハイテク大型加速器リニアコライダー国際研究所を建設する国際構想が、我が国が主導的に牽引してきた国際設計チームによる設計報告書の完成により、いよいよ立地先を決める段階となってきました。ことし二月のNHKの番組「クローズアップ現代」でも取り上げられましたし、新聞に掲載される機会もふえてきましたので、概要については県民の皆様にも少しずつ認知されてきたところであります。しかし、簡単にリニアコライダーの概要について述べました後、質問に入っていきたいと思えます。

ILCの研究施設は、地下の非常に強固な岩盤に掘られた、全長三十一キロメートルから五十キロメートルの地下トンネル内に設置された直線加速器で、電子と陽電子をほぼ光の速さまで加速し衝突させることで、宇宙誕生直後の状態を再現し、未知の粒子の発見や宇宙誕生のなぞを解明することを目的としております。全世界五カ所の建設候補地のうち、日本の脊振地域と北上地域が大変有望な候補地となっております。研究施設の設置運営による経済効果は一兆円とも二兆円とも言われておりますが、リニアコライダーは革新的技術の集大成であり、派生する応用技術は、国内で七十兆円の産業分野に及ぶとも言われています。スーパーコンピューター技術、医療や創薬などの生命科学、エネルギー、環境分野などで新たな産業を生み出す無限の可能性を秘めており、産官学の連携により、我が国の成長の礎を築くことが期待されております。福岡に誘致できれば、アジアで初めての大型国際研究所となり、世界じゅうから多くの最先端の優秀な科学者が集まり、次世代の基礎科学、技術の発信基地として、この福岡が世界一の国際科学イノベーション拠点となります。

ちょうど一年前のこの二月議会におきまして、私がこの国際リニアコライダーの脊振地域への誘致について一般質問をしたときには、皆さんから、リニアコライダーとは何か、聞いたこともない、あるいは東北のほうにできるような話を聞いたことがあるといったように、脊振地域への誘致に関しては、ほとんどの方が関心がない、認識がないような状況だったことを記憶しております。

私の質問に対します知事の答弁も、国に対して、このプロジェクトを国家プロジェクトとして取り上げ、取り組んでいくよう働きかけるとの内容でありました。しかし、この一年間で国際リニアコライダー誘致に関する環境は大きく変化をしてきました。昨年十一月の決算委員会において、誘致に向けた推進体制が十分でない、産業界も一体となって誘致に努力すべきではないかとの私の質問に対し、知事からは、本地域におけるＩＬＣ計画の実現を目指し、関係者一体となってしっかり取り組んでいきたいと思うとの強い意志が示されました。

昨年末に政権交代した国の取り組みも大きく変化をしてきました。超党派の議員から成るリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟がことしの二月一日に再出発し、勉強会開催や、六月を目途に議連としての政策レポートの取りまとめを行うことなど、かなり積極的な活動が展開され始めました。また、この脊振地域への誘致を目指す九州・山口地域のＩＬＣアジア―九州推進会議がことしの二月十四日に設置され、九州の産官学政が一体となって、九州でのＩＬＣ計画の実現を目指す活動がいよいよ本格化してまいりました。そして、今議会における自民党県議団の代表質問に対し知事からは、ＩＬＣ推進チームを設置し、一生懸命頑張っていくと、誘致に向けた大変前向きな答弁がなされました。

日本に誘致できる可能性が大変大きくなった中で、七月には科学者間で日本の候補地を一本化するとの情報もあります。しかし、福岡の優位性をしっかりと世界にアピールし、この脊振地域が候補地としてすぐれていることを世界に認識させるための時間的な余裕がないのが大変心配であります。福岡の発展、将来の都市計画、子供の教育など、どのような観点から見ても、この国際リニアコライダーを福岡に誘致するメリットが大きいことは、これまで重ねて申し上げてきたところであります。この大きなチャンスを逃がさぬよう、福岡、佐賀の県民が一丸となり、誘致の実現に向けて頑張っていかなければならないと思っております。

そこで、提案も含め質問をいたします。まず一つ目の質問は、住民に対する広報活動についてであります。誘致に当たって最も大切なことは、住民の理解を得ることであると思っております。そのためには、できるだけ多くの人々にＩＬＣとは何か、誘致の意義やメリット等について知ってもらわなければなりま

せん。しかし、脊振地域に対する認知度はかなり低く、北上地域と比べますと、残念ながら誘致活動のおくれを感じざるを得ません。私が去る二月十日に九州大学理学研究院の川越清以教授を講師に招き、筑紫野市で開催した講演会では、参加された皆さんから、候補地として脊振地域が挙げられていることを初めて知った、基礎科学の大切さが理解できた、福岡県の発展に大きく貢献する夢のあるプロジェクトであり、みんなで協力して誘致しようと、脊振地域への誘致に大きな期待の声が寄せられました。このようなプロジェクトがあることを知ってもらわなければ、議論も誘致活動も、何も始まらないのです。

先月の東北地方の新聞に、ILC復興の象徴にと題した記事が掲載され、推進協議会の活動内容を初めDVDや新たなパンフの製作など、多くの人にILCを知ってもらう取り組みが紹介されていました。東北地方は、マスコミとの協力体制も図りながら、誘致に向け活発な活動が展開されています。

そこでお聞きいたします。限られた期間の中で、県は県民に対して、どのようにして広報活動を行っていくのでしょうか。

二つ目の質問ですが、福岡市を初め関連地域との連携はもちろんのこと、県として一体となって取り組むためには、県内全域の市町村への周知も必要であると思われませんが、県はどのように対応していくのでしょうか。

次に、三つ目の質問は、海外に対する誘致活動についてであります。研究に参加する世界の国々が負担して建設、運営をする研究施設でありますので、海外の科学者の思いや意見も重要になってきます。海外の科学者に、建設候補地は脊振地域が好ましいと声に出してもらうことが必要だと思っています。家族も一緒に赴任することが多い海外の科学者には、奥さんや子供たちが安心して快適に生活できる環境を提供できることをアピールし、家族からも、福岡で生活したいと声に出してもらえるような取り組みが求められます。福岡は、空港、道路、鉄道など交通インフラにもすぐれ、四月からはヨーロッパに直行便も就航しますし、学術研究都市としての基盤も整っております。自然や文化、伝統など、福岡には海外に誇れるものがたくさんあります。そして、特に福岡がすぐれている点は、外国人を受け入れる土壌が育っていることでもあります。この点はしっかりとアピールしていかなければなりません。また、福岡には外国人に日本を紹介するNPO法人が多くあります。このような団体に協力を得なが

ら、市民活動として誘致活動を行っていくことも、日本に訪れる科学者とその家族への大きなアピールになるものと考えられます。

そこで、海外に対する県の誘致活動をどのように展開していくのかをお聞きをいたします。

四つ目の質問は、将来の都市構想についてであります。県民への周知と理解を得るために、I L Cが実現したときの都市の将来像を具体的に示す必要があると思いますが、それはどのようなものか、県の考えをお聞きいたします。

質問を終えるに当たりまして、県議会議員及び執行部の皆様に対し、いろいろな機会に、この国際リニアコライダーについてお話をさせていただき、県民の皆様へ周知度を高めていただく、これをお願いいたしまして、私の質問を終わります。（拍手）

○副議長（新村 雅彦君） 小川知事。

* 知事答弁

○知事（小川 洋君）登壇 まず、県民の皆様に対しますI L Cの広報活動についてでございます。国は、I L C計画に取り組むという方針をまだ示しておりませんが、研究者の間では、先ほど議員も御指摘になりましたように、候補地を一本化するような動きがございます。このような動きを踏まえながら、地元の機運を早急に高めていく必要があると、そのように考えております。このため九州・山口産学官政結集いたしておりますI L Cアジア―九州推進会議、それと一体となりまして、集中的な広報活動に今後取り組んでまいりたいと考えております。

具体的には、県民向けのパンフレットを現在作成中でございます。これを幅広く配布をしていきたいと考えております。また、空港、駅、そういった交通の拠点や公共施設などにポスターを掲示することによりまして、広く皆さんに知っていただきたいと思っております。あわせて、県内の市町村、企業に対しまして、それぞれの広報紙等を通じまして周知の協力を呼びかけてまいります。

次に、県内市町村への周知についてでございますが、脊振地域でI L C計画を実現していくためには、県内の市町村の協力が不可欠であります。福岡市や

糸島市など脊振地域の関係市あるいは町に対しましては、これまでILC計画をめぐる動きなどについて情報を共有してまいりました。今後は、県下の市町村の首長の皆さん初め、それぞれの役所で説明会を実施いたしまして、ILC計画の内容、それから本県誘致の意義、そういったことについて周知を図りたいと思っております。そしてまた、私どもがやっております推進会議への参加を幅広く求め、活動の輪を広げたいと考えております。

次に、海外に対する誘致活動についてお尋ねがございました。ILC計画を脊振地域で実現していくためには、世界各国の研究者の理解と協力が不可欠だと考えております。このため、学術研究機能の集積、外国人にとって安全、安心、快適な住環境、医療、教育環境、またすぐれた交通アクセスなど、私どもの地域が持っております強さといえますか、特色といえますか、これをアピールしていくことが重要でございます。県では、昨年秋、世界の優秀な若手物理研究者を約八十名集めまして、二週間にわたって最新の研究情報を学ぶスクールというものを、この福岡県下で開催をしたところでございます。その際、参加された外国の方には、我が福岡の持っている生活環境のよさ、そういったものを実感してもらったところであります。また、全世界で四十三万人の読者を持っております総合科学誌「ネイチャー」というのがございます。この三月二十一日号で、素粒子物理の九州大学のポテンシャル、安全で安心して住みやすい居住環境、充実したスポーツ、文化施設、国際空港との近接性や新幹線、高速道路といったすぐれた交通インフラ、そういった脊振地域が持っております強みとあわせて、我が地域、福岡県、佐賀県が九州一体となってILC計画に熱心に取り組んでいるということ、記事の内容でアピールする予定になってございます。今後は、ILCアジア—九州推進会議とも連携をいたしまして、各種ルートを通じまして、海外の政府に働きかけをやったり、大学のネットワーク等を活用して、先ほどいろんな各種団体の活用もお話がありました、そういったことも含めまして、効果的なルートを通じまして、研究者に対し広く脊振地域の魅力を発信していきたいと考えております。

次に、将来の都市像についてお尋ねがございました。脊振地域におきましてILC計画が実現いたしますと、この地域が人類の進歩と基礎科学の発展に大きく貢献することになります。また、世界じゅうの多くの研究者等が居住、滞在することが想定されるわけでございますので、そうした研究者やその御家族、技術者、そういった方と住民の交流を通じまして、アジアでも類を見ない文化、学術交流機能を兼ね備えた国際研究都市というものが形成できるのではないかと考えております。また、ILCの整備に必要となります新材料、超精密加工、超伝導技術など、そういった最先端の技術はIT、バイオ、医療、環境などさまざまな先端研究分野に応用が可能でございます。先端成長産業の創出であり

ますとか関連産業の集積といったものも期待できるわけであります。さらに、世界最先端の基礎科学研究が身近なところで行われることによりまして、青少年の科学あるいは理科に対する好奇心を高め、次の時代を担っていく科学者が、世界で活躍できるような人材が、この地から生み出されていくものと期待されます。こうした都市の形成が期待されております I L C 計画でございます。その実現に、これからもしっかりと取り組んでまいります。